

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 8 年 8 月調査結果 - -

( 平成 1 8 年 9 月 1 日 )

調査期間：平成 1 8 年 8 月 2 1 日～ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 9 0 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 8 0 製造業 6 2 2 卸売業 2 3 4  
小売業 7 4 0 サービス業 6 1 4

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題など

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

**業況DIは2カ月連続改善も、仕入・輸送コスト増、金利上昇等不安材料あり**

8月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（24.0）よりマイナス幅が1.1ポイント縮小して22.9となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別の業況DIは、製造でマイナス幅が拡大したものの、他の4業種で縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている一方、依然として原油・素材価格の高騰や仕入・輸送コストの上昇とそれに伴う採算の悪化、借入金利上昇による影響を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「新築個人住宅の売上が回復し、アパートの着工件数も若干増加している」（一般工事）、「今月は前年同月比で売上が増加し、好調を維持していると感じている」（電気工事）との声がある一方、「人件費の増加や仕入コスト上昇により、発注案件があっても価格が折り合わずに受注できないケースが多い」（建築工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「販売単価が改善するとともに、受注残も増加傾向にある」（他の輸送用機器製造）、「建設機械や工作機械の生産が好調で工場はフル稼働の状態にあり、生産能力向上のための設備投資や人員増強の動きが随所に見られる」（金属加工機械製造）との声がある一方、「軽油の値上がりで運搬費が4%ほど上昇しており、経費負担が増えている」（豊製造）と、原油価格高騰による影響を指摘するコメントに加え、「仕入コスト上昇分を販売価格へ転嫁するのは難しく、借入金利の上昇で資金調達もままならない」（通信機械器具製造）と、仕入コスト上昇と金融機関からの借入金利上昇の両方を懸念材料として掲げる声も寄せられている。

【卸売業】では、「米国産牛肉の輸入再開を受け、国産牛肉や他国産牛肉の価格が落ち着いて売上が回復するのではと期待している」（各種商品卸売）との声がある一方、「住宅ローン金利引き上げで住宅販売に陰りが出た場合、建築資材の売上に影響が出る可能性がある」（建築材料卸売）とのコメントのほか、「原油価格高騰の影響を受け、配送車両等の燃料費のコスト削減に苦慮している」（食料・飲料卸売）と、原油価格高騰による輸送コスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「月間売上が対前年同月比で100%を超える月が多くなり、個人消費の回復を肌で感じている」（百貨店）との声がある一方、「金利上昇で借入金の利払いが増加するとともに、原油価格高騰が仕入価格に影響を及ぼしている」（その他の小売）とのコメントに加え、「都市部で見られる景気回復感は地方では感じられず、また、一部店舗は急激なユーロ高による輸入価格の上昇に苦慮している」（商店街）と、為替動向による悪影響を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「顧客の設備投資に関連したソフトウェア開発の受注が回復している」（ソフトウェア）との声がある一方、「天候の影響でビアガーデンが思うように営業できず売上が低迷しているとともに、出前もガソリン代の上昇が利益を圧迫している状況」（他の一般飲食店）、「新倉庫が完成して売上が増加したが、軽油の値上げ（1リットルあたり5円）により運送コストが上昇したため、採算が悪化している」（その他サービス）と、原油価格高騰によるコスト上昇を訴える声が寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が4.5ポイント縮小して14.6となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は製造で拡大したものの、他の4業種で縮小した。

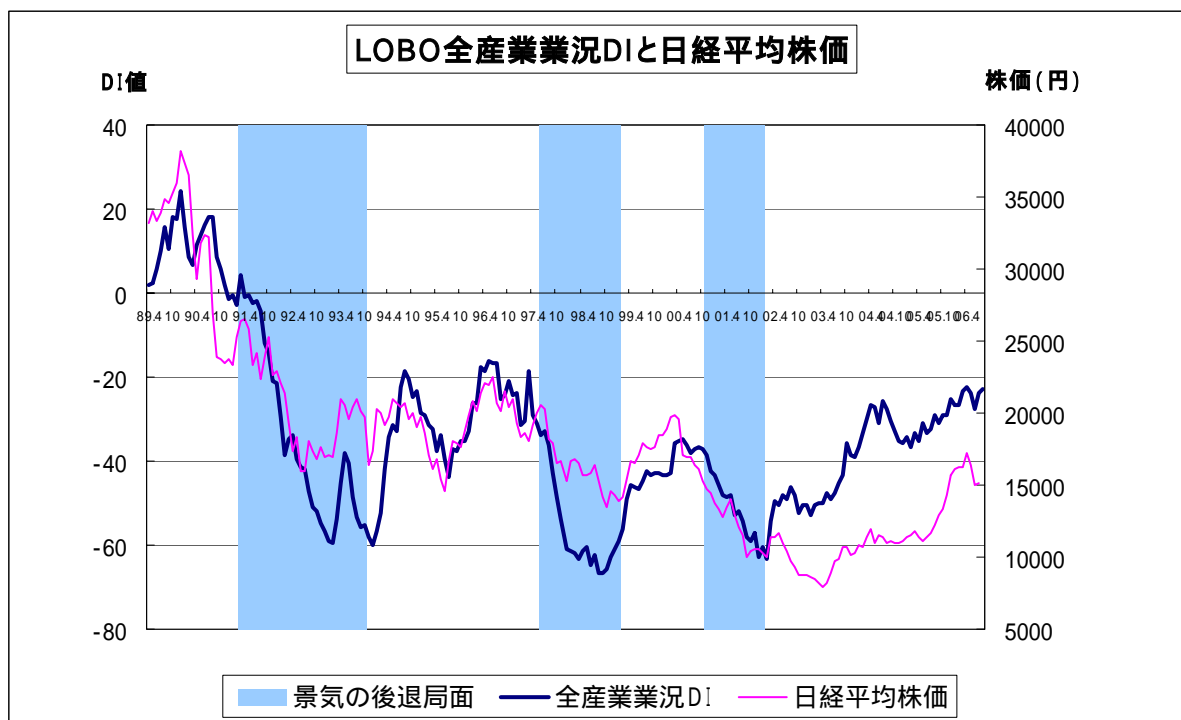
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が0.5ポイント縮小して26.5となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、製造で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が0.8ポイント弱まって16.9となり、2カ月連続で弱まった。産業別にみると、DI値の悪化超感製造で強まったものの、他の4業種で弱まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が2.7ポイント強まって31.2となり、5カ月連続で強まり、平成3年5月の調査開始以来の最低値(前月28.5)を更新している。産業別にみると、DI値の上昇超感卸売で弱まったものの、他の4業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、過剰超感が0.9ポイント弱まって0.5となり、2カ月連続で弱まった。産業別にみると、DI値は小売で不足超感が弱まる一方、建設、卸売で過剰超感が弱まり、製造、サービスで不足超感が強まった。

向こう3カ月(9月~11月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が21.2と、昨年同時期の先行き見通し(25.6)に比べて改善している。



【業況についての判断】

8月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 24.0 ）よりマイナス幅が1.1ポイント縮小して 22.9となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別にみると、製造でマイナス幅が拡大したものの、他の4業種で縮小した。

向こう3カ月（9月～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 21.2と、昨年同時期の先行き見通し（ 25.6 ）に比べて改善している。

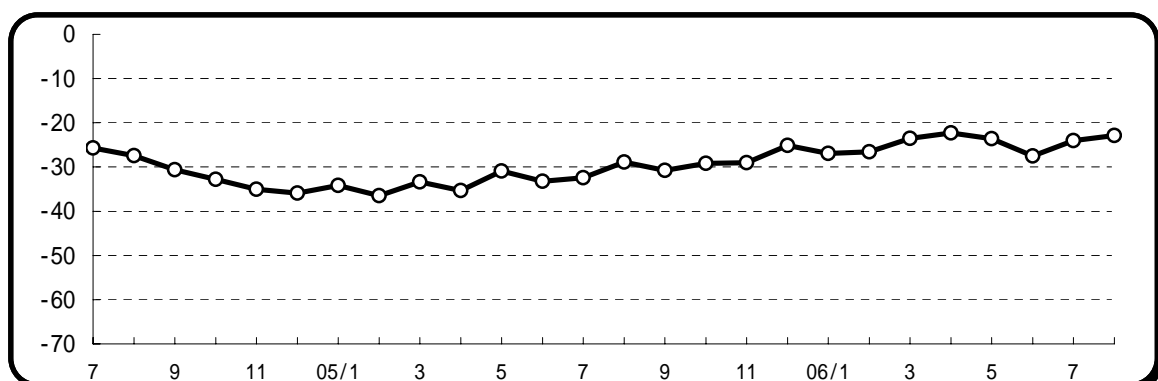
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売でマイナス幅が拡大しているものの、他の4業種で縮小している。

業況D I（前年同月比）の推移

	18年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	23.5	22.3	23.6	27.5	24.0	22.9	21.2 ( 25.6)
建設	36.4	40.7	40.0	44.1	36.5	34.8	34.6 ( 36.6)
製造	10.7	11.5	10.5	16.1	8.3	12.8	12.0 ( 16.0)
卸売	33.3	25.5	32.3	31.5	31.8	30.5	23.3 ( 23.2)
小売	21.6	18.3	22.4	23.4	22.4	19.7	18.7 ( 26.1)
サービス	27.8	26.1	24.6	32.5	31.4	26.7	24.6 ( 29.2)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年8月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が4.5ポイント縮小して14.6となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は製造で拡大したものの、他の4業種で縮小した。

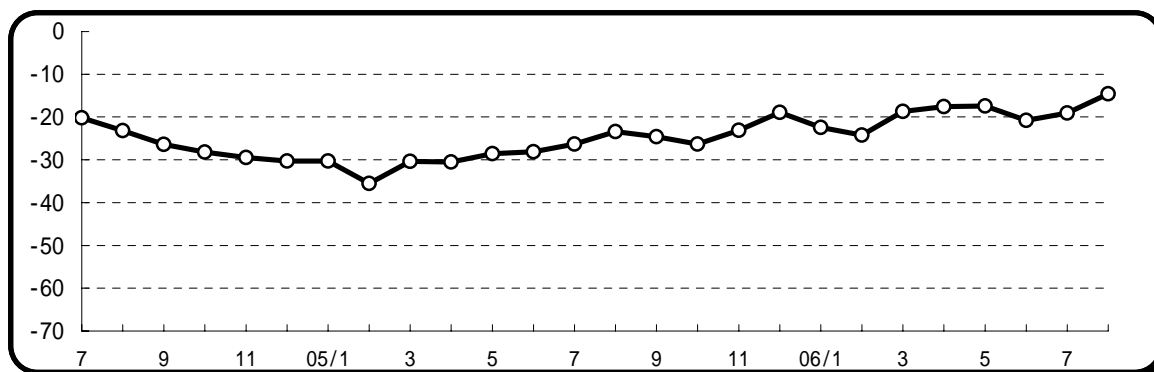
向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が13.6と、昨年同時期の先行き見通し(18.3)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、全業種でマイナス幅が縮小している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	18.7	17.6	17.4	20.8	19.1	14.6	13.6 (18.3)
建設	33.3	35.8	37.0	38.3	30.9	28.9	26.2 (29.0)
製造	0.0	1.4	0.9	2.3	3.2	3.7	3.9 (9.3)
卸売	34.0	28.8	31.1	23.5	25.5	19.5	16.7 (18.5)
小売	20.6	18.8	20.8	23.4	20.9	14.9	12.3 (20.2)
サービス	21.3	17.4	14.5	25.4	23.4	14.9	16.2 (18.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が0.5ポイント縮小して26.5となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

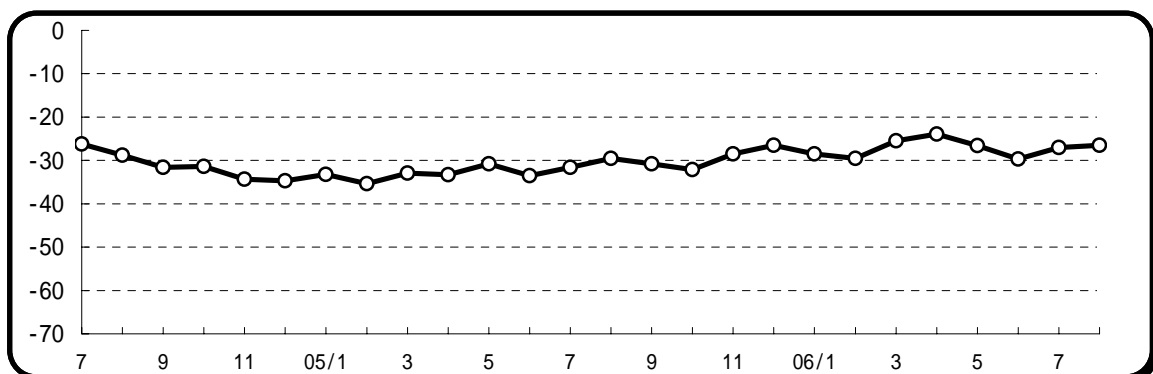
向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が22.0と、昨年同時期の先行き見通し(23.2)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、製造とサービスでマイナス幅が拡大しているものの、他の3業種でマイナス幅が縮小している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	25.5	23.9	26.6	29.7	27.0	26.5	22.0 (23.2)
建設	41.0	41.1	45.6	46.6	37.1	39.8	34.4 (36.3)
製造	14.5	16.4	21.8	24.3	17.9	23.6	20.2 (18.7)
卸売	25.8	25.0	30.5	26.5	32.5	25.6	14.8 (19.6)
小売	23.2	17.4	21.4	26.1	23.0	18.5	14.5 (19.0)
サービス	30.0	28.5	24.1	30.4	32.6	31.3	28.0 (26.3)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	18.3	17.1	17.8	18.3	17.7	16.9	17.1 (16.9)
建設	31.6	30.0	32.2	34.1	28.9	27.6	28.5 (29.1)
製造	12.2	11.8	11.7	12.4	10.9	11.8	14.2 (15.1)
卸売	16.7	10.6	17.0	17.4	15.8	14.6	9.0 (8.7)
小売	14.5	12.7	15.0	13.6	15.0	13.3	15.0 (15.5)
サービス	21.6	21.6	17.9	19.6	21.8	20.3	18.3 (15.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月連続で弱まった。産業別にみると、製造で悪化超感が強まったものの、他の4業種では弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、建設、製造、小売で悪化超感が弱まるものの、他の2業種では強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	19.6	21.7	24.5	27.1	28.5	31.2	27.5 (16.3)
建設	26.3	27.8	37.3	37.4	38.6	42.0	36.5 (25.4)
製造	33.3	39.3	38.4	41.3	42.3	45.6	38.0 (27.1)
卸売	11.9	19.4	25.0	27.2	36.9	36.0	32.5 (17.9)
小売	7.4	8.0	10.0	13.5	14.3	16.0	16.4 (7.1)
サービス	18.9	16.2	19.7	21.8	21.2	25.5	21.9 (9.3)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が5カ月連続で強まった。産業別にみると、卸売で上昇超感が弱まったものの、他の4業種では強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみても、全業種で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	18年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	0.7	0.6	1.7	2.1	1.4	0.5	2.5 ( 3.5)
建設	16.5	16.3	21.9	19.0	18.2	17.1	14.4 ( 17.5)
製造	1.6	1.1	2.3	1.8	0.7	3.2	2.7 ( 2.3)
卸売	1.3	3.8	3.7	4.9	8.9	7.3	9.9 ( 5.5)
小売	6.4	7.6	6.7	5.4	6.6	5.4	4.1 (1.4)
サービス	2.0	4.2	2.4	0.2	1.0	2.0	0.8 ( 0.8)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比 D I】全産業合計は2カ月連続で過剰超感が弱まった。産業別にみると、小売で不足超感が弱まる一方、建設、卸売で過剰超感が弱まり、製造、サービスで不足超感が強まった。
- 【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、製造、卸売で過剰超感が強まるものの建設で弱まり、小売で不足超感が強まるとともに、サービスで不足超感に転じる見通し。



## 【平成18年8月の景気キーワード】

### 回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費好調、来店者数増加、先行き期待という声が寄せられている。「民間住宅建設が少しずつ好転している」(古川・大工工事)、「受注価格は低迷しているが、公共工事の入札件数が増加しているとともに、民需の面でも設備投資が増えてきた」(草津・一般工事)との声のほか、「受注状況は安定しており、受注残も2カ月から3カ月分を確保している」(新居浜・一般産業用機械製造)とのコメントも寄せられている。また、「一部商品の売上が増加、もしくは堅調な動きを見せており、今後も需要の増加が見込まれる」(浦安・鋳物金属材料卸売)、「衣料品の売上が若干下降気味も、食品やお中元の売上は生鮮品を中心に好調を維持している」(大川・その他の小売)と消費好調を指摘する声のほか、「今月は猛暑が続き、台風の影響もなかったため、昨年と比較して来店者数が多かった感がある」(赤穂・喫茶店)とのコメントも寄せられている。

### 悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き公共工事や出荷の減少など業況低迷や先行き懸念、来店者数減少を訴える声も寄せられている。建設、製造、卸売からは「公共事業の減少や民間工事の低迷により、前年同月比で売上、採算ともに悪化しており、業況は一層厳しい状況となっている」(米子・一般工事)、「出荷は昨年同月比で8.3%減少しているとともに、原材料コストの上昇により利益が圧迫されている」(大垣・他の窯業・土石製造)、「依然として末端の需要が回復せず低迷が続いており、企業間の格差も大きい」(京都・衣服・日用品卸売)との声が寄せられている。また、小売、サービスからは、「地元客の消費意欲は依然として低調で苦戦しているのに加え、来年春には大型店の進出も予定されている」(館山・商店街)、「8月は例年、地元への帰省客を中心に来店者数が多い月だが、今年は少なく感じた」(会津喜多方・理容)とのコメントが寄せられている。

### 仕入・輸送コスト上昇

また、引き続き、原油・素材価格の高騰等による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「公共事業の減少や原油高による材料・運賃の値上がりにより、業況は厳しい」(甲府・一般工事)、「銅やメッキ等材料の仕入コストが高騰しているため、製造原価が上昇している」(松原・金属線製品製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも「燃料や石膏など原材料コストの値上がりによって収益が悪化している」(瀬戸・家具・建具等卸売)、「紙製品や砂糖を原料とする商品の仕入価格上昇が続いている」(伊那・百貨店)、「急激な灯油の値上がりのために経費が増大しているため、全体的に状況は厳しい」(土別・洗濯)といったコメントが寄せられている。

### 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
18年	6月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	7月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	8月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況・売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月ぶりに拡大した。「新築個人住宅の売上が回復し、アパートの着工件数も若干増加している」(一般工事)「今月は前年同月比で売上が増加し、好調を維持していると感じている」(電気工事)との声がある一方、「公共工事の発注が始まり各社それぞれ受注しているものの、受注金額は小さく売上増加には至っていない」(土木工事)「人件費の増加や仕入コスト上昇により、発注案件があっても価格が折り合わずに受注できないケースが多い」(建築工事)といった声も寄せられている。</p>
製 造	<p>業況・採算D Iは2カ月ぶり、売上D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「販売単価が改善するとともに、受注残も増加傾向にある」(他の輸送用機器製造)「建設機械や工作機械の生産が好調で工場はフル稼働の状態にあり、生産能力向上のための設備投資や人員増強の動きが随所に見られる」(金属加工機械製造)との声がある一方、「受注・売上ともに安定しているが、仕入コスト上昇に加えて顧客からのコストダウン要請もあり、収益がなかなか回復しない」(自動車・附属品製造)「仕入コスト上昇分を販売価格へ転嫁するのは難しく、借入金利の上昇で資金調達もままならない」(通信機械器具製造)「軽油の値上がりで運搬費が4%ほど上昇しており、経費負担が増えている」(置製造)といった声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況・売上・採算D Iともに2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「米国産牛肉の輸入再開を受け、国産牛肉や他国産牛肉の価格が落ち着いて売上が回復するのではと期待している」(各種商品卸売)「今月はわずかながら前年実績をクリアできた。今後も着実に伸ばしていきたい」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「住宅ローン金利引き上げで住宅販売に陰りが出た場合、建築資材の売上に影響が出る可能性がある」(建築材料卸売)「原油価格高騰の影響を受け、配送車両等の燃料費のコスト削減に苦慮している」(食料・飲料卸売)といった声が寄せられている。</p>
小 売	<p>業況・売上・採算D Iともに2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「月間売上が対前年同月比で100%を超える月が多くなり、個人消費の回復を肌で感じている」(百貨店)「業況はやや上向き傾向にあり、先行きも明るいと感じている」(商店街)との声がある一方、「都市部で見られる景気回復感地方では感じられず、また、一部店舗は急激なユーロ高による輸入価格の上昇に苦慮している」(商店街)「金利上昇で借入金の利払いが増加するとともに、原油価格高騰が仕入価格に影響を及ぼしている」(その他の小売)「売上が回復しても一時的なものにとどまり、採算改善には結びつかない」(百貨店)といった声が寄せられている。</p>
サービス	<p>業況・売上D Iは2カ月連続、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「顧客の設備投資に関連したソフトウェア開発の受注が回復している」(ソフトウェア)、「昨年同時期と比べると来客者数が増えているとともに、お盆を休まずに営業した店舗は売上も増加している」(食堂・レストラン)との声がある一方、「天候の影響でビアガーデンが思うように営業できず売上が低迷しているとともに、出前もガソリン代の上昇が利益を圧迫している状況」(他の一般飲食店)「軽油価格が元売価格で前月比7円も値上げされており、先行きを懸念している」(運送業)「新倉庫が完成して売上が増加したが、軽油の値上げ(1リットルあたり5円)により運送コストが上昇したため、採算が悪化している」(その他サービス)といった声が寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、東北、東海、九州でマイナス幅が拡大したが、他の5ブロックで縮小した。なお、全ブロック合計は2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

ブロック別の向こう3カ月（9月～11月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北海道で悪化したものの、他の8ブロックで改善した。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	18年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全 国	23.5	22.3	23.6	27.5	24.0	22.9	21.2 ( 25.6)
北海道	33.6	29.3	29.4	36.2	20.4	30.6	33.1 ( 32.3)
東 北	27.9	29.6	30.3	33.8	22.4	24.8	28.2 ( 31.4)
北陸信越	22.7	23.7	17.3	25.1	20.8	13.7	15.4 ( 25.0)
関 東	19.3	15.7	21.1	22.6	21.6	15.2	14.8 ( 17.7)
東 海	14.3	15.0	20.8	22.6	17.9	24.2	16.4 ( 26.5)
近 畿	26.5	22.1	25.4	28.5	30.1	29.4	26.9 ( 29.5)
中 国	27.0	26.5	26.9	31.9	30.0	25.9	28.1 ( 29.2)
四 国	31.0	36.7	29.0	40.0	38.1	35.7	25.9 ( 32.6)
九 州	21.0	21.1	20.2	21.0	19.1	20.7	15.8 ( 20.7)

